

ほけんだより

病児・病後児保育「みどい」
令和5年2月発行



今月のテーマは「**耳の健康**について」です！

子どもは、風邪を引いたときなど、耳の病気を併発することがあります。機嫌がずっと悪い、耳をよく触るなどが耳の病気のサイン。あれっ？と思ったら耳鼻科を受診してみましょう。

急性中耳炎・・・鼓膜の奥の〈中耳〉に真正細菌が入り、炎症が起きる疾患



- 中耳に膿が溜まり、鼓膜がパンパンに腫れ、発熱や耳痛を引き起こす
- 6カ月～2歳児によく起こり、3歳位までは繰返しかかる『反復性中耳炎』になる子どもも多いが、小学校高学年以降からは、中耳炎は起きにくくなる

＜症状＞

まず耳が痛くなり、発熱します。熱や痛みが収まっても治ったわけではありません。鼓膜の奥に膿が溜まっているので、耳の聞こえが悪くなります。

その後、時間をかけて徐々に膿が鼻から抜けていくので、鼻の通りはよくしておくといよいでしょう。

＜原因＞

風邪がきっかけとなることが多く、風邪で増えた菌が鼻の奥にある耳管を通り中耳に入り込む。その菌が鼓膜やその内側に炎症を起こします。プールやお風呂の水が原因になることはありません。

＜治療法＞

抗生剤や抗生物質で菌の増殖を抑え、痛みには鎮痛剤を使います。風邪などが原因の場合は、風邪の治療も行うので鼻水をこまめに吸ってあげることも効果的です。

耳垢栓塞・・・耳垢が固まり、耳の穴を栓のようにふさいでしまう疾患

- 耳の中をふさいでしまうために、中耳炎などの病気を見逃しやすくなったり、無理に取ろうとして耳を傷つけることがある。

＜症状＞

耳が痛い、聞こえにくいといった症状がでる。さらに、頭痛や難聴・めまいの原因にもなる。

＜原因＞

耳掃除の際、取り切れない耳垢を奥に押し込んでしまい、奥で固まってしまい耳垢栓塞になってしまう。

＜治療法＞

無理やり取ろうとすると耳を傷つける恐れがあるので、必ず耳鼻科を受診してください。



《**耳を大切に・・・**》 耳は、音を聞くだけでなく体のバランスを取ったり、気圧の変化を調整したりするなど大切なたらきがたくさんあります。耳のそばで大声を出さない、ふざけて耳の穴にものを入れたりしない、耳をたたかない、鼻をかむときには鼻を片方ずつ押さえるなど耳に負担をかけないようにしましょう。